

鄭州城

鄭州城は高地に亘りて築設せられ、遠く河南の平原を瞰制す城郭は土壁より成りて、周圍我約一里弱、戸數三千、人口一萬有餘、回教徒多しと云ふ、官衙には縣衙門巡警局、郵便局、鐵路工程局、電信局等學校には小學堂(六十名生)中學堂(七十名生)各々一個を有し、街路は狭く且つ坂路少からず、家屋は稠密にして不潔を極む。故に外人は概ね城外に住み、停車場附近は皆鐵道員の居宅にて充さる。麥、瓜、硝石類は主なる產物にして輸入雜貨品は、本邦及獨逸品其の大部を占む。

此地は京漢鐵道の中央に位置し、且つ汴洛(汴州洛陽間)鐵道の交叉點に當るを以て、停車場には倉庫並に工場等、四個の大建築物を駢べ、其の設備稍觀るべきもの有り。飲用水は井水を用ゐ、石炭は密縣の供給を仰ぐ。

## 第二節 鄭州、潼關間

十九日午前七時二十分鄭州出發、荷物は從僕に附して支那馬車に託し、予は專ら騎馬に依る。曾て福島將軍に聞く、旅行をして有利ならしめんには、汽車よりは馬車、馬車よりは騎馬、騎馬よりは徒歩に加かず云々と。其意蓋し、旅行の苦樂に應じ

汽車を棄  
て騎馬に  
據る